

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.90】H23(2011).6.15
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

今金中学校の先生が小学校で授業
「巡回指導教員活用事業」

巡回指導教員活用事業は、児童生徒の学力を高めるため、教科指導において豊富な経験と高い専門性、実践的な指導力を有する教員が複数の学校を巡回し、ティーム・ティーチングによる授業や若手教員等の指導、授業づくりにかかわることをねらいとして行われる道教委のモデル事業です。

昨年は、今金中学校の国語教諭が今金小学校と種川小学校を巡回しましたが、２年目の実践となる本年度は、この４月から小学校の学習指導要領が改訂され、小学校５年生・６年生に外国語（英語）が導入されることから、今金中学校の野呂教諭（英語）が今金小学校と種川小学校を巡回し、TTによる授業が行われます。また、本町では国際交流アドバイザーも配置していることからこの４月から着任し、３代目のアドバイザーとなるマイケル・ウィドナー先生も加わり、昨年整備した電子黒板を活用等も含めきめ細かな指導が実践されています。



小学校の外国語活動は、単に国際理解を図ることを目的とした活動ではなく、中学校の英語授業に接続するものとして位置づけられています。そのため、中学校においては、地域の小学校における外国語活動の指導内容について、扱われている単語や表現などについてもきめ細かく把握することが、特に中学校第１学年の指導内容に係る指導計画を作成する際に必要となることから、小学校においても中学校と連携を密に図っていくことが求められており、巡回指導教員活用事業（英語）はとてもタイムリーな事業となっています。また、昨年の国語教諭の巡回指導での子どもの変容や若手教員の声について紹介します。





○ 個別の指導を丁寧に行った児童が、学習した内容が定着するようになり、質問するなど授業に取り組む姿勢が高まった。
○ 一人で学習を進めることが苦手だった児童が、学習に主体的に取り組むことができるようになってきた。
○ 若手教員は、一人一人に児童をきめ細かく見取ることができるようになり、国語の学習指導の進め方に、自信をもって指導できるようになってきた。
○ 若手教員は、間接指導を充実するための手立てについて、自信をもって指導できるようになってきた。

（檜山教育局報告書より）

今金小学校が道教委の指定校に
「外国語活動・英語教育重点推進校」

国際化社会に対応できる英語力を身につけるため、道教委の施策として道内４ブロック（道央、道南、道北、道東）から小・中・高等学校各２校を重点推進校として道内２４校を指定するものです。指定校は小学校外国語活動や英語教育、国際理解教育を重視したカリキュラムの開発や指導方法や指導内容の工夫・改善等の実践研究に取り組みます。今金小学校は、道南（渡島、檜山、胆振、日高）の小学校２校枠の１校として指定を受け、平成２３年度から平成２５年度の３年間にわたり、校内に研究推進委員会を設置し、実践研究の推進を図ります。



被災地NZバーンサイド高校からのお礼

２月２２日に発生したニュージーランド・クライストチャーチ地震への被災地支援として関係者による義援金（659,500 円）と今金中学校・檜山北高校からのお見舞いメッセージが送られましたが、それらに対するお礼と写真がクライストチャーチ市長、バーンサイド高校から届きました。また、ＮＺでは、「ＫｉａＫａｈａ！（いっしょにがんばろう）ＪＡＰＡＮ&ＮＥＷＺＥＡＬＡＮＤ」が国内で展開されています。共に復興に向けがんばりましょう。





特別寄稿「架け橋」



今月は、前教育委員長の
柴谷澄子さんです。

『老いを見つめながら』

『白雲自去来（はくうんみずからきょらいす）』毎年夏が来るたび茶室に掛ける軸のひとつです。



山がありそこへ雲が来て、去ってゆく。ただそれだけの情景ですが、どんな雲がかかろうと、山は泰然自若と動かず、生老病死の苦しみを雲にたとえ、山の如くあれと生きる上で励まされる禅語です。

今私は、病に苦しむ主人のそばで、私自身も老いてゆく現実に直面し、老々介護の厳さを実感しています。辛い時にこの言葉に支えられていますと格好のいい言い方をしていますが、いらいらしたり眠れなかったり限りなく不安に襲われる夜も度々です。

そんな中、５月１１日、今金町教育委員会の外部評価委員会があり出席してきました。午前１０時に始まって、役場の勤務終了のチャイムが鳴り、いつもの「帰宅の際は車に気をつけて・・・」云々という庁内放送が流れても終わらない会議でした。

外部評価委員会は、５名の外部評価委員が点検・評価した内容がまず教育委員へ伝えられ、議会へ報告、そして町民へ公開（ホームページ及び町内回覧）されますので内容は省きます。とにかく、教育委員会の執行している分野と量の多さに毎回びっくりです。

評価委員は、元役場の助役、地産地消の郷土料理店経営者、ＪＡ職員でもある保護者、今金の大地で農産物を育てる農業のプロという多彩な顔ぶれからそれぞれの視点で鋭い質問や指摘に若い職員達は仕事とはいえ自己評価をしながらその必要性や進捗情況、見通しなど説明に真剣です。少しでもよい方向へと吟味してゆく私共も大変です。



また、社会教育分野は民間から委員に委嘱されている各委員長（社会教育委員、体育指導委員、文化財保護委員）が自ら職員と共に説明してくれます。でも、こうした時間が今金町の将来や未来のある子ども達に何らかの形でプラスになれると信じながら評価委員会という貴重な時間を共有させていただいています。

この半年間、今金を離れて主人に付き添い会議にも出席できないこともあり、外部評価委員の仕事が出来るだろうかと時に疑問を持ちましたが外にいるからこそ見えることもありました。

来客は、必ず今金の出来事を、手紙や電話も、北海道新聞の記事も、この『こんにちは教育委員です。』もしかりです。

特に勇気づけられたのは、№８５号平成２３年１月６日発行、小山忠弘先生（前札幌国際大学学長）の特別寄稿です。老いてゆく日々を果敢に挑戦し続ける高齢者の実例は、ユーモアにあふれそれを見守る優しさが滲み出ています。



年齢にこだわらず、自分の出来る力の範囲の中で社会にかかわってゆきなさいと示唆されました。そこを学びながら謙虚に自分の老いをみつめ、１日１日を大切に生きてゆきます。